



Newsletter

No. 27 September 30 2017

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点

継続は力なり

本学とチリの交流の歴史は古く、1968年に本学の当時の第一外科、村上忠重教授がサンティアゴで、早期胃がん診断と治療に関する講演をしたことが始まりとなっています。その後も、チリとの関係は継続され、1977年にはサン・ボルハ病院内に日智消化器病研究所が設立されました。それから40年経った現在、日智消化器病研究所は、大腸がん早期診断プロジェクト(PRENEC)のサンティアゴの拠点として重要な役割を果たしています。

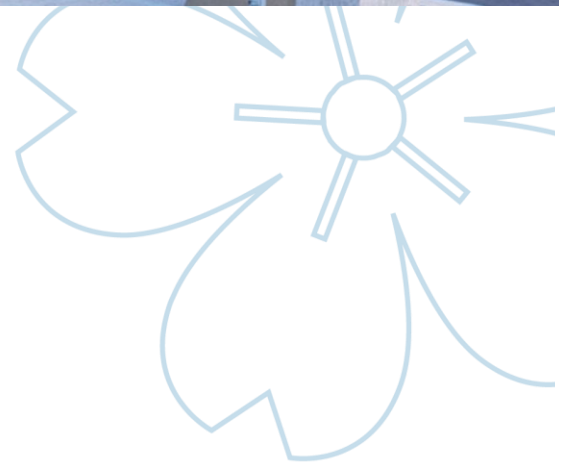
ニュース等でご存知の方も多いかと存じますが、9月25日から10月2日にかけて、日本との外交関係樹立120周年を迎えたチリと国際親善を深めるために、秋篠宮殿下・妃殿下がチリに公式訪問されました。滞在期間中の9月27日には日智消化器病研究所にも、ご視察にいらしてくださいました。

両殿下の短いチリ滞在期間に、本学の活動の場である日智消化器病研究所をご視察先として選定して頂いたことは、本学とチリとの40年以上に渡る交流を評価して頂いたことに他なりません。

この度、両殿下に拝謁し、本学の活動等をご説明させて頂く機会を頂いたことは、私のような若輩者にとって大変光栄でした。両殿下からは励ましのお言葉を頂き、チリで勤務していくうえでの大きな励みとなりました。

このような機会を頂くことが出来たのも、先輩方が40年以上の間、チリとの交流を絶やさずに続けてきたからです。困難な時期もあったかと思いますが、まさに「継続は力なり」で努力してきた結果なのでしょう。私も、その時出来ることを精一杯やって今後に繋がっていくよう頑張っていければと思います。今後とも宜しくお願い申し上げます。

小田柿 智之 消化器病態学分野



LACRC TMDU IN CHILE
Latin American Collaborative Research Center
Santiago de Chile



Contents

ご挨拶	1
秋篠宮殿下・妃殿下チリ訪問.....	2
JDプログラム.....	3
PRENECの進捗状況.....	4
プロジェクトセメスター.....	7
活動報告	8

秋篠宮殿下・妃殿下のチリ公式訪問

国立サン・ボルハ病院内の日智消化器病研究所をご視察

本年9月27日に、チリと日本間の外交関係樹立120年の記念式典にご出席されるため、チリをご訪問中の秋篠宮殿下・妃殿下が、国立サン・ボルハ病院内の日智消化器病研究所をご視察されました。

日智消化器病研究所ではバルトロメ医師（保健省首都圏州中部医療サービス局副局長）、ベラ医師（サン・ボルハ病院長）、ジョレンス医師（日智消化器病研究所初代所長）、エステラ医師（同研究所現所長）らが、秋篠宮殿下・妃殿下をお迎えしました。

エステラ医師が、本学と同研究所との40年にわたる医療技術協力の説明をしました。

小田柿助教は、本学におけるチリでの活動や、内視鏡検査の流れ、内視鏡検査室や草の根・人間の安全保障無償資金協力で同研究所へ供与された内視鏡等の説明をし、秋篠宮殿下・妃殿下からは多くの関心を寄せていただきました。

28 de septiembre de 2017

Príncipe y princesa de Japón visitan el Hospital Clínico San Borja Arriarán

Este miércoles 27 de septiembre, el Hospital Clínico San Borja Arriarán recibió la visita del príncipe y la princesa de Japón, Akishino y Kiko, en el marco de la conmemoración de los 120 años de relaciones diplomáticas entre Chile y Japón.

Algo de historia entre Japón y el HCSBA

La relación entre el hospital y Japón se remonta al año 1970, cuando la Agencia de Cooperación Internacional de Japón (JICA), inicia cursos de 3 meses de duración en Tokio sobre detección del cáncer gástrico, dirigido a médicos extranjeros, los cuales se mantuvieron hasta el 2014.

En 1977 el Dr. Pedro Llorens, fundador del instituto, impulsó el Proyecto de Control del Cáncer Gástrico, que contribuyó al desarrollo de las técnicas de diagnóstico del cáncer gástrico, que se extendió hasta 1982. Mientras que de 1981 a 1995 se capacitó a médicos de distintos países latinoamericanos en Chile.

En 2010 se da origen al Proyecto de Prevención de Neoplasias Colorrectales (PRENEC) a través del convenio entre el Ministerio de Salud, la Universidad Médica y Dental de Tokio y la Clínica Las Condes, el cual se inició en el HCSBA durante julio del mismo año.

Entre los equipamientos donados se encuentran: microscopios, micrótopo, endoscopios con cámaras y TV, sistema de laparoscopia y de radiología, entre otros. La última donación fue de \$47 millones, destinados a la compra de 5 endoscopios y la reparación del pasillo interior del Instituto Chileno Japonés.

A la fecha, son 35 médicos y profesionales chilenos capacitados en Japón, 80 médicos y profesionales japoneses enviados a Chile y 118 profesionales de Latinoamérica que se han especializado en nuestro país a través de los cursos internacionales.

“秋篠宮殿下・妃殿下、サン・ボルハ病院をご訪問”

チリと日本間で国交樹立120周年を迎え、チリに公式訪問をされている秋篠宮殿下・妃殿下（紀子さま）が9月27日にサン・ボルハ病院にいらっしゃいました。

《中略》

1981年から1995年にかけて、ラテンアメリカの様々な国の医師等を対象とした国際消化器病研修がチリで行われていました。そして、2010年、チリ保健省、東京医科歯科大学（以下TMDU）及びクニカ・ラス・コンデス（以下CLC）間の協定により大腸癌早期診断プロジェクト（PRENEC）が始まり、サン・ボルハ病院でもこのプロジェクトが開始されました。

今まで日本から供与を受けたものは、顕微鏡、マイクローム、内視鏡スコープ、テレビ、腹腔鏡システム、放射線システム等です。また、最近では47,000,000チリペソが寄付され、5本の内視鏡の購入、日智消化器病研究所の内装補修工事に充てられました。

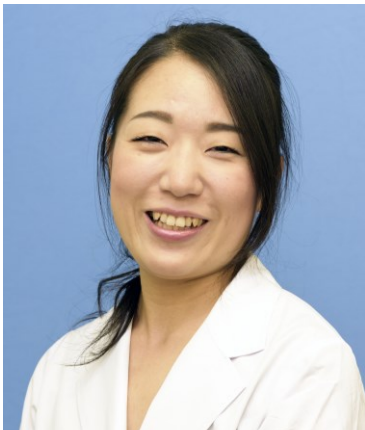
今までに、35人のチリ人医師や専門家が日本で研修を受け、80人の日本人医師や専門家がチリへ派遣され、118人のラテンアメリカの専門家が国際研修を受講しました。

（チリ保健省掲載記事より内容を抜粋）

ジョイント・ディグリー・プログラム

ジョイント・ディグリー・プログラム (以下JDP) の平成29年度10月入学の試験が、8月に本学及びチリ大学合同の学術委員会により行われ、第二期生となる学生が2名選出されました。本号では、各学生の入学に対する思いを掲載しています。

平成29年度10月入学JDP学生の決定



松宮由利子 医師

初めまして。この度、平成29年度JDP二期生として入学することとなりました。今回、JDPに参加できますことを心から嬉しく思うとともに、協力していただきました方々に心から感謝を申し上げます。このプログラムでは、東京医科歯科大学のみならず、南米で随一の優れた学術機関であるチリ大学で研究の基礎・実践を学ぶことが出来ます。歴史あるチリ大学で学べることは大変光栄で、期待で胸がいっぱいです。

チリという、地球の真裏の地で、不安がないかと言われると嘘にはなりますが、それ以上に、これから出会える全てのことが楽しみで、これから学ぶ知識や技術を一生懸命吸収していきたいと思えます。

最後になりますが、チリという国がとても好きになって、次への架け橋となっていけるように頑張ります。



ラファエル・アルトゥーロ・サナブリア・カイチェ医師

私はエクアドル出身の一般外科医師です。エクアドル国内やラテンアメリカの様々な地域で仕事をする中で、医学における研究と教育には学術的な要素が必要だと感じました。

チリ滞在中に本プログラムを知る機会があり、これまでの実績に感銘を受け、肝胆膵外科学と肝臓移植の分野に興味があったことで、同分野に入学を志願しました。両大学が連名で授与するPhDの学位を得られることは私にとって最大のメリットですし、日本で学ぶことで、自身の経験や技術を向上させることができればと思っております。

両大学から指導を受けることで、新しい知識を取り入れ、質の高い研究を行っていきたいと思えます。宜しくお願い申し上げます。

PRENECの進捗状況

大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)の最新情報をご報告いたします。現在、バルパライソにおけるPRENECが、病院の予算確保の問題で、低迷しているものの、プンタ・アレナス、サンティアゴ、バルディビア、オソルノ、コキンボの5都市と、さらには、国外ではパラグアイで、免疫学的便潜血反応検査(以下iFOBT)を用いた検診プログラムが順調に進行しております。

7月にコンセプション市の医療チームを対象としたPRENEC講習会が行われ、8月にはJICA・AGCID後援のもと第三国研修が開催されました。また、9月には新たな国内PRENEC参加候補地としてロス・アンヘレスにおいて大腸コロモデルを使用した啓発活動が行われました。

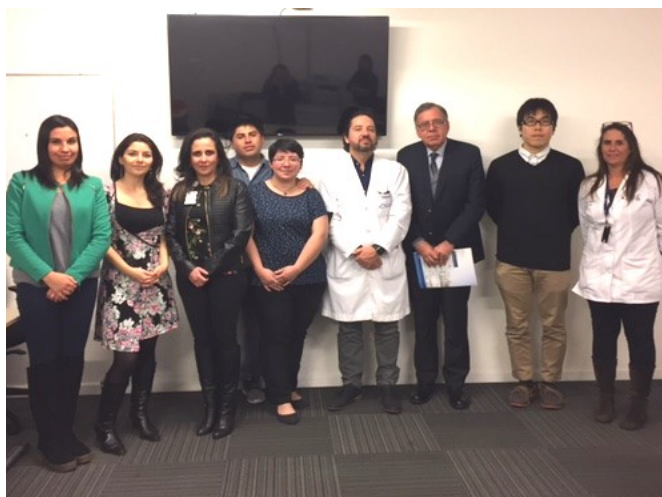
本号ではPRENEC講習会と第三国研修についてお伝え致します。

PRENEC講習会

本年7月24・25日の2日間にわたって、グラント・ベナベンテ病院(コンセプション市)の医師、看護師等を対象にPRENEC開始のための講習会が開かれました。

本講習会では新規参加に必要な設備や運営方法、便潜血検査、データの取り扱いなどに関する説明の他、実際にサンティアゴ地区で患者登録を行っている保健センターの見学も行われました。小田祐助教からは、「PRENEC研修医師への指導方法」についての発表が行われました。

本講習会を通して、新規拠点におけるPRENECが早急に開始されることが期待されます。



講習会参加者と記念撮影



保健センターへの見学の様子

第三国研修

本年で3回目となる JICA・AGCI(チリ国際協力庁)後援の第三国研修がペルー及びコロンビアの医療チームを対象に開催されました。昨年同様、本学から岡田卓也講師と伊藤崇助教が、JICA専門家として招聘され、LACRCの小田柿助教、ロベス医師、PRENECスタッフらと共に指導にあたりました。研修は8月28日から5日間に渡り行われ、会期中の前半は、サンティアゴで各分野の講義やコロンモデルを用いた内視鏡の実技指導を行いました。後半は、プンタ・アレナスに移動し、PRENECの最初の拠点であるマガジャネス病院の見学、及び、小田柿助教がPRENECの現地での対応困難な症例の内視鏡治療を行いました。また、最終日には、プンタ・アレナスにおけるPRENECが5周年を迎えることから記念式典が開催され、研修参加者にこのプロジェクトの歴史を知ってもらう良い機会となりました。

この研修会は本年を持って終了となりますが、今後も第三国研修に代わる機会を通して南米でのがん検診の普及に貢献してまいります。



開講式での記念撮影



開講式にご出席いただいた在チリ日本大使館の倉田書記官とヤマモト氏



講義を受ける研修参加者ら



研修参加者との記念撮影



伊藤助教による発表の様子



岡田講師による実技指導の様子



小田柿助教による内視鏡治療の様子



岡田講師による発表の様子



JICAのベラ氏と記念撮影



夕食会の様子

プロジェクトセメスター

本学の学生海外基礎医学実習(プロジェクトセメスター)の学生が本年6月よりチリ大学にて研究活動を行っています。本号では彼らのチリ滞在記をお伝え致します。

学生チリ滞在記

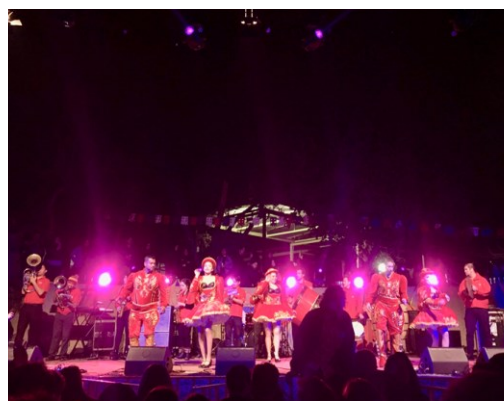
鈴木圭人 チリ大学 感染症学研究室所属

時が経つのは早いもので5月に始まったチリでの生活も折り返し地点を過ぎ、研究も本格的に結果を出しデータをまとめる段階に来ています。

生活面のご報告としては、当初、英語でコミュニケーションをとっていた友達やラボの方と、ほとんどスペイン語で話せるようになりました。まだまだ流暢にコミュニケーションはとれませんが、日々成長を感じることができ達成感があります。現地の言葉で話すと、その言葉でしか表せない繊細な感覚をそのまま共有することができるので面白いです。

さて、9月はチリ独立記念日の18(ディエシオチョ)という国民の一大イベントがあり、その前後でFonda(フォンダ)というお祭りが各地で開かれました。チョリパンやエンパナーダといったチリの代表的料理を片手にテレモートなどの国民的カクテルをたくさん飲むというとてもチリらしいお祭りです。写真はチリ大学 AntumapuキャンパスでのFondaでチリ北部の方から来た方が現地の伝統舞踊を踊っているところです。大学のイベントでもこの様に国の文化的芸能を楽しむのはとても素晴らしいことだと思いました。

残り2ヶ月をきったチリ留学生生活を最後まで充実した時間にしたいと思います。



チリ北部の伝統舞踊の様子

小島原知大 チリ大学 腎臓病学研究室所属

5月末よりチリ大学医学部に派遣されております、医学科4年の小島原知大です。チリでの生活も残りわずかとなり、春の陽気を感じながら研究生活を送っています。

チリという新しい環境での研究生活によって、手技が向上したのはもちろんのこと、ひとつの実験を終わらせた後に「このことから何が言えて、次にすべきことは何か」を必ず考えるように指導されるため、リサーチマインドも育ちました。現在は、樹状細胞での遺伝子発現をメインプロジェクトとして、血液・尿中のNa/K濃度測定、スーパーオキシドの測定などサブプロジェクトも充実しています。

最初はどうなるかと思われたスペイン語の方も、ラボメンバーや現地の友達のおかげで少しずつ聞けるように、話せるようになり、研究に加えて得られた成果として大事にしたいと思います。

チリ・日本問わずサポートいただいている皆様への感謝の気持ちを忘れずに、残りの期間がより充実したものとなるように精一杯取り組みますので、応援よろしくお願いします。



休みを使ってイースター島に行ってきました。このモアイは大阪万博の時に来日しているそうです。

LACRC活動報告

チリ国内病院における困難症例の内視鏡治療

LACRCの小田柿助教は、チリ国内の公立病院の要請を受けて、現地の医師では対応困難な症例の内視鏡治療のサポートを行っています。

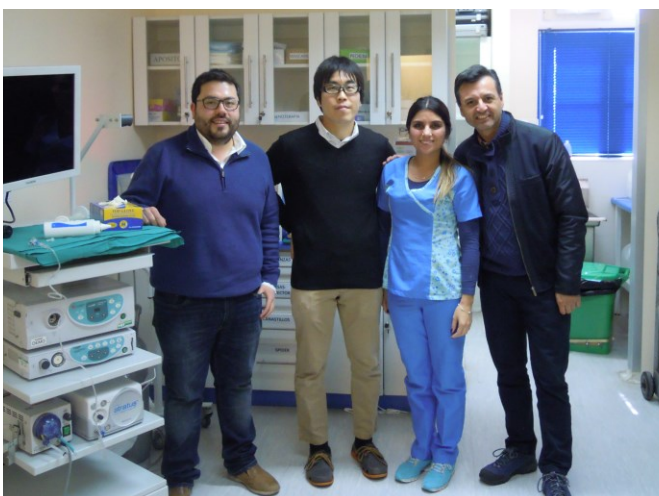
本年7月25日、サンティアゴのチリ国立がん研究所では早期食道がんの内視鏡的粘膜切除術 (EMR)を行い、8月14日、バルパライソのペレイラ病院では大腸腫瘍に対してEMRを施行しました。チリの公立病院では、十分な治療器具や物品が得られず、日本のようにスムーズに行かないことが多々あるため、工夫を凝らし、柔軟に取り組む姿勢が必要です。今後も、チリ人医師の技術の向上に寄与していきます。



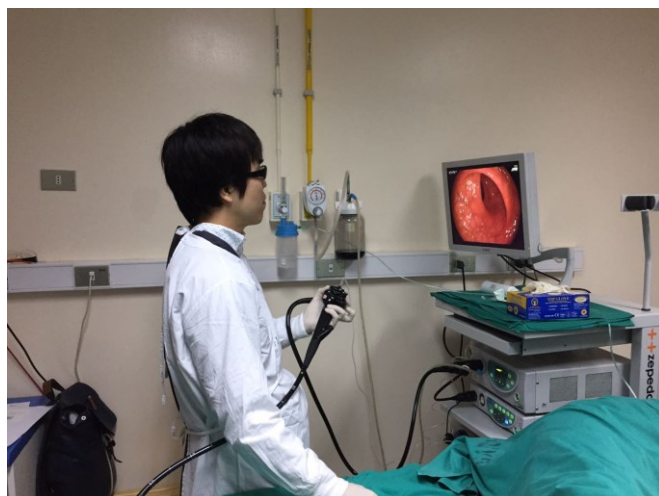
チリ国立がん研究所外観



チリ国立がん研究所スタッフらと



ペレイラ病院スタッフらと



ペレイラ病院で内視鏡治療を行う小田柿助教

アルゼンチン消化器内視鏡学会に参加

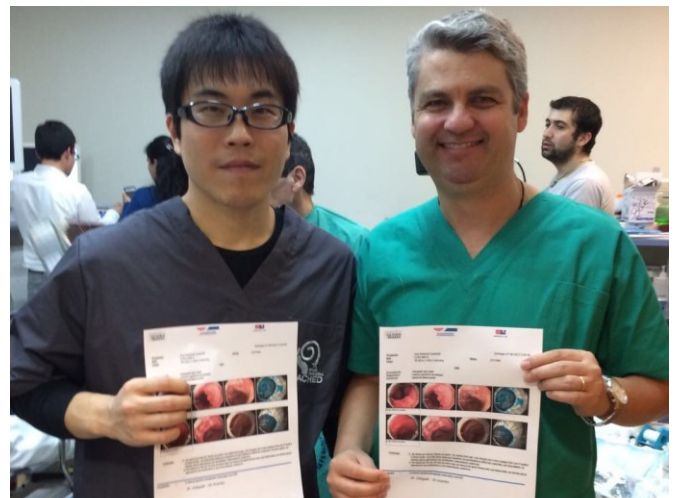
本年9月7日、アルゼンチン消化器内視鏡学会（Gastro Rosario）のライブセッションに、サン・ボルハ病院の内視鏡センタープロジェクトのチームがチリからアルゼンチンへの中継で参加しました。

小田柿助教も参加し、ブラジル出身のアランテス医師と共に、早期胃がんに対して粘膜下層剥離術（ESD）を施行しました。アルゼンチンを始め、多くの南米の医師からの関心を集めました。

このような一つ一つの取り組みが、南米の医療の向上の一助となることを願っております。



ライブセッションの様子



アランテス医師との記念撮影

編集後記

本号でお伝え致しましたように、チリと日本の間で国交樹立120周年を迎えたことから、秋篠宮殿下・妃殿下の公式訪問を始め、日本からの専門家や文化人を招いた講演会やコンサート等の記念事業がチリの各地で開かれています。両国はほぼ地球の反対側に位置していますが、今回の記念行事を通して、距離が近くなったように感じます。今後もNewsletterを通じて近況を報告して参ります。より良い誌面を作成する為、皆様からのご意見・ご要望がございましたら気軽にLACRCオフィスまでご連絡くださいませ。（早川美貴）

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点
Latin American Collaborative Research Center
Newsletter No. 27, September 2017

〔発行日〕 2017年9月30日
〔制作〕 Latin American Collaborative Research Center
Tokyo Medical & Dental University
Clínica Las Condes
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile
Tel: (56-2) 2610 3780
Email: LACRC-CHILE.adm@cmn.tmd.ac.jp